

APU国内学生後援会 2026年度 定例懇談会

大学代表挨拶

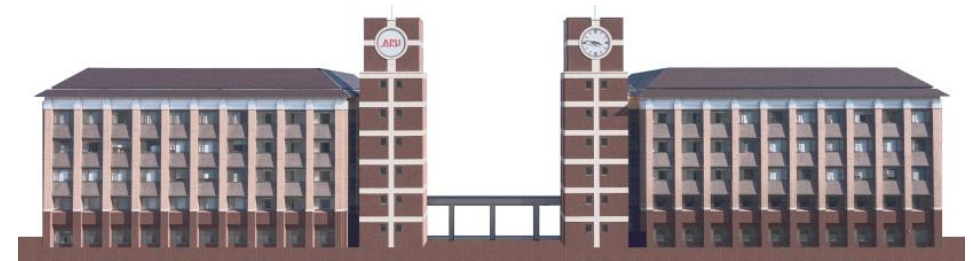
立命館アジア太平洋大学

学長 米山 裕



本日本話させて頂く 内容について

1. APUの近況
2. 国内学生後援会事業について
3. APUの概要と今後の展望



1. APUの近況



2026年春の「入学式」を開催

2026年4月1日、APUキャンパスで春の入学式を行いました。41カ国・地域出身の学部生1005名、14カ国・地域出身の大学院生31名が入学しました。交換留学生・科目等履修生の受け入れ数は、29カ国・地域出身の109名です。式典では、米山裕学長が祝辞を述べ、「平和は、つくるもの。考える力は、鍛えるもの。未来は、選ぶもの」と語り、新入生が主体的に学び、行動することの重要性を説きました。





QS世界大学ランキングは、イギリスのクアクアレリ・シモンズ社（QS）が毎年発表する、世界で最も影響力のある大学ランキングの一つです。

「QS世界大学ランキング（ホスピタリティ&レジャーマネジメント分野） APUが初ランクイン

2026年3月25日に発表された、2026年版QS世界大学ランキング（分野別）ホスピタリティ&レジャーマネジメント分野において、APUが世界101～150位に初めてランクインしました。このランキングの本分野において、日本の大学でランクインしたのはAPUのみであり、APUにとっても初めての成果となります。

本分野の評価指標には、最も優れた卒業生を輩出すると考えられる大学を評価する「企業等の雇用者による評価」、自身の研究分野において最も優れた研究を行っていると考えられる大学を評価する「学術関係者による評価」、「教員1人あたりの論文被引用数」が用いられており、特に実務性と国際的な評価が重視されています。

今回のランキングにおいてAPUは、雇用者による評価が特に高く、こうした産業界からの支持を背景に、ホスピタリティ&レジャーマネジメント分野での初ランクインを果たしました。今後もAPUは、産官学の枠を超え、地域と連携しながら、実践的で国際的な教育・研究の充実に取り組んでまいります。





「THE 日本大学ランキング」は、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）とベネッセグループが大学の教学改革やグローバル化の推進を目的に公表するランキングです。ランキング指標となる「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野によって大学の「教育力」を測定し、今回は257大学がランキング対象となりました。

「THE日本大学ランキング2025発表」 全国私大で4位、7年連続 西日本私大1位にランクイン

英国の高等教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）による「日本大学ランキング 2025」が、4月3日（木）17時に発表され、対象となった257大学のうち立命館アジア太平洋大学は、前回（2023年3月発表）に引き続き**全国の私立大学で第4位**、さらに**7年連続で西日本の私立大学において第1位**の評価となりました。総合順位は、前回と同じく**第22位**となりました。4分野から構成される分野別のランキングでは、「国際性」で**全国第2位**、「教育充実度」では4年連続で**全国第3位**となりました。「国際性」は外国人学生比率、外国人教員比率、外国語で行われている講座の比率など、国際的な環境が評価されます。「教育充実度」は、大学生・大学院生への調査（教員・学生の交流、授業・指導の充実度、大学の推奨度など）による満足度が反映されます。また、高校教員を対象とした評判調査結果（グローバル人材育成の重視、入学後の能力伸長）から、どれだけ教育への期待が実現されているかを表しています。APUでは、2000年の開学以来、日本人学生と留学生の比率50%を目指し、現在では112ヵ国・地域から学生が集う国際性豊かな学びの環境を維持しています。その環境を活かして、授業では、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク、企業連携プロジェクト、海外研修など、実践的かつ参加型の学びを重視してきました。こうした継続的な取り組みが、今回の高い評価につながったものと考えています

- 総合順位 全国私立大学トップ10
- 1 国際基督教大学
 - 2 慶応義塾大学
 - 3 早稲田大学
 - 4 **立命館アジア太平洋大学**
 - 5 上智大学
 - 6 立命館大学
 - 7 芝浦工業大学
 - 8 神田外国語大学
 - 9 東京理科大学
 - 10 立教大学

- 「教育充実度」が高い大学 トップ5
- 1 国際基督教大学
 - 2 国際教養大学
 - 3 **立命館アジア太平洋大学**
 - 4 東京工業大学
 - 5 一橋大学

- 「国際性」が高い大学 トップ5
- 1 国際教養大学
 - 2 **立命館アジア太平洋大学**
 - 3 国際基督教大学
 - 4 大阪女学院大学
 - 5 関西外国語大学





APUの近況

FUTURE VISIONARY VICE PRESIDENT RECRUITMENT

ないものはつくればいい。
大学はもっとおもしろくなる。

未来の教育を拓く新制度 2026年度『特命副学長決定！！』

26年度 特命副学長



アジア太平洋学部
DUBE TANATSIWA CHRISTABEL



渋谷教育学園渋谷高等学校 2年
高橋 朋花

高校生

高校生 特命副学長

- 役割/活動**
- 地域と文化を越えた同世代の仲間と共に、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
 - 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
 - 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
 - 在校生特命副学長との連携
 - 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

高校生 サミットメンバー

- 役割/活動**
- 高校生副学長とともに、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
 - 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
 - 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
 - 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

在校生

在校生 特命副学長

- 役割/活動**
- APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
 - 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
 - 大学評議会（大学の最高意思決定機関）への提言
 - 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
 - 高校生特命副学長との連携

在校生 サミットメンバー

- 役割/活動**
- 在校生副学長とともに、APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
 - 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）との連携
 - 在校生副学長と連携し、大学評議会への定期的な出席
 - 学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応



学生の活躍について

快挙！世界的ビジネスケース・コンペティション APUチームが3位入賞！

6月6日(金)に香港で開催された世界的な
ビジネスケース・コンペティション
「HSBC/HKU Asia Pacific Business
Case Competition 2025」において、
APU生のチームが日本代表として参加し、
みごと第3位に輝きました！
今回の世界大会には、世界各地の予選を
勝ち抜いた全24チームが集結し、4日間
にわたって熱戦が繰り広げられました。
APUチームは、今年4月に東京で行われた
日本予選を制し、世界の舞台への出場権
を獲得しました。





学生の活躍について

大阪・関西万博でパフォーマンスを披露

2025年8月8日(金)、9日(土)の2日間、大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」主催の「世界遊び・学びサミット」にて、APUの学生団体がステージパフォーマンスや文化体験ブースを実施しました。を行いました。





APU開学25周年記念式典を開催！

2025年11月23日（日）、別府国際コンベンションセンター（B-Con Plaza）にて、APU開学25周年記念式典を開催しました。当日は、省庁、自治体、九州産業界、教育機関など、開学以来APUを支えてくださった約330名の関係者が参加しました。式典では、文部科学大臣 松本洋平氏（代読：高等教育局長 合田哲雄氏）、大分県知事 佐藤樹一郎氏、別府市長 長野恭紘氏、衆議院議員・前外務大臣 岩屋毅氏より祝辞を賜り、APUの25年の歩みと今後への期待が述べられました。会場は終始盛況で、大いに盛り上がる式典となりました。



『産官学連携事例』

APUとThe Breakthrough Company GOとの包括連携協定の締結

2025年10月2日（木）、APUとThe Breakthrough Company GOは、包括連携協定の締結式を行いました。

本協定は、GOとAPUが持つ知見や資源を結集し、「クリエイティブの力による社会改革と地域創生」を共同で推進するとともに、次世代を担うクリエイティブ人材を育成することを目指して締結されました。

主な連携事項

1. クリエイティブ人材の育成と教育支援

APU学生が「THE CREATIVE ACADEMY」およびオンライン講「UNLIMITED」を受講し、GOクリエイティブディレクターとの相談会などを実施。

2. 地域経済の活性化

学生の創造的な発想を活かし、地域課題解決プロジェクトを展開。

3. 社会課題解決に向けた協働研究

APUのサステナビリティ研究成果とGOの実践知を融合し、教育プログラムを共同開発。

4. グローバルな発信

学生や校友の成果を国内外に発信し、世界とつながる学びを推進。

5. 新しい学びの場の創出

大分校を拠点とした国際的ネットワークを活かし、地域と世界を結ぶ交流を促進。



『産官学連携事例』

APU生が「空飛ぶクルマ」活用シンポジウムで発表 — 大分県主催の次世代空モビリティ検討事業に産官学連携で参画 —

2026年2月21日（土）、別府国際コンベンションセンターにて開催された「空飛ぶクルマシンポジウム」において、立命館アジア太平洋大学学生9名が成果発表を行いました。本シンポジウムは、「次世代空モビリティと地方創成 ～別府・湯布院から始まる空のイノベーション～」をテーマに、大分県が推進する次世代空モビリティ活用事業の一環として開催されたものです。

本事業は、大分県、九州旅客鉄道株式会社、SkyDriveによる包括連携協定を契機に始動し、自治体・企業・大学が連携して地域での利活用を検討してきました。APUは、吉澤清良の指導のもと、学生9名がワークショップやフィールドワークに参加し、地域課題や活用可能性について検討を行いました。

学生たちは、「空飛ぶクルマで挑む地域課題解決の未来」をテーマに、物流、観光、医療、地域活性化の4つの視点からユースケースを提案し、地域実装に向けた可能性を示しました。





APUの近況

「Leap Beyond Global」
ライフロング・ラーナー

APUではロングライフ・ラーナーが集うコミュニティを形成し、人生のあらゆる段階で学び続ける意欲的な人々が共創しあう場を提供していきます。立命館東京キャンパスを会場にて、後援会の皆様を主な対象として、APUセミナーを実施しました。



APUは2025年に開学25周年を迎えました

立命館アジア太平洋大学
APUセミナー@東京
2025年度 第1回



- 日時: 2025年 12月6日(土) 10:00 - 11:30
- 会場: (対面)立命館東京キャンパス/Zoom配信もあり



■講師: 岡村 善文 APU副学長/教授
1981年外務省入省 2008年駐コートジボワール特命全権大使をはじめ、中東アフリカ局アフリカ部長、国連日本政府代表部次席大使、経済協力開発機構(OECD)日本政府代表部 特命全権大使などを歴任。2024年より立命館アジア太平洋大学副学長/APS教授

「外交官が見た“日本”と“世界”」

40年以上にわたり外務省員、外交官として国際舞台で活躍した岡村善文副学長。世界のあちこちで、様々な人々や社会に触れる機会を通じて、日本人の私たちが常識と思っていることが常識でないのに驚き、また日本人が思いつかない良い知恵ややり方を学んできました。そうした外交官としての経験をお話しつつ、とりわけアフリカでの体験や、見聞きした奇想天外な風習などを紹介し、APUが育てる国際人材に必要な力や柔軟な発想とは何か、大学の使命と未来への挑戦を伝えます。

- 対象: 在学生父母または、APUにご寄付いただいている個人
(本セミナー申込時に寄付申し込みいただく方含む)



APUは2025年に開学25周年を迎えました

立命館アジア太平洋大学
APUセミナー@東京
2025年度 第2回



- 日時: 2026年 1月31日(土) 10:00 - 11:30
- 会場: (対面)立命館東京キャンパス/Zoom配信もあり



■講師: 山川 哲史 国際経営学部教授
1979年日本銀行入行(金融研究所、国際局等において、主に調査・研究業務に従事)、1992年米國ブラウン大学にて経済博士号(Ph.D.)を取得。その後、1994年ゴールドマン・サックス証券東京支店入社(チーフエコノミスト・汎アジア経済調査部長として経済分析に従事)、2010年7月にパークレイズ証券東京支店入社。2024年4月より立命館アジア太平洋大学教授。

「日本ロング」の定着を目指して - 海外投資家による日本トレードの含意

高市新政権の誕生後、株高、金利上昇、そして円安加速など、金融市場でも大きな動きがみられています。ヘッジファンドを含む海外投資家は、従来様々な観点から日本市場を対象としたトレードを展開してきましたが、現状は、構造改革を契機に恒久的な「日本ロング(買い)」へと向かうのか、あるいは逆に、「日本ショート(売り)」へと転じるのか、日本に対する見方が異なる分岐点に立っています。日本経済の構造変化が加速度的に進むなか、後者を回避し「日本ロング」を定着させるためには何が必要なのか、本公演では従来の海外投資家による日本トレードの経緯を7大トレードとして整理しつつ、あるべき改革の方向性を考えてみたいと思います。

- 対象: 在学生父母・校友、またはAPUにご寄付いただいている個人
(本セミナー申込時に寄付申し込みいただく方含む <https://www.apu.ac.jp/support/menu/>)

2. 後援会事業について



国内学生後援会について

2025年度 国内学生後援 役員体制

APU国内学生後援会会員の皆様へ



APU国内学生後援会
2026年度会長 東口 家寿子

国内学生後援会の皆様におかれましては、日頃より当会の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度APUは開学25周年という大きな節目を迎え、多くの皆様のご支援のもと、その歩みを振り返るとともに、さらなる発展に向けた新たな一歩を踏み出しました。これまで本学の発展を支えてくださったすべての関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

本年度は、これまでの歩みを礎とし、次の時代に向けて飛躍していく重要な一年となります。当会といたしましても、「世界を変える人を育てる」というAPUの理念のもと、学生一人ひとりが多様な学びと挑戦を通じて成長できる環境づくりを支えるべく、引き続き主以下のような事業を実施してまいります。

1 100円朝食の実施

学生の豊かな食生活を支える取り組みとして、好評を得ている「100円朝食」を本年度も継続実施する予定です。本事業は当会における重要な支援施策の一つであると認識しており、現在の通年実施を維持できるよう、引き続き工夫と努力を重ねてまいります。

2 学生に関する啓発事業の実施

学生が遭遇しそうな事件、事故等から未然に防ぐ啓発事業に取り組んでまいります。APU学生メンバーや別府警察署の協力のもと、啓発動画等を作成し、大学のHPや学内のデジタルサイネージ等を通じて周知をしていく予定です。

3 定例・地域懇談会の開催

本年度の定例懇談会および地域懇談会は、全国6会場にて開催を予定しております。在学生および卒業生による個性豊かなプレゼンテーションは毎回大変好評であり、APUでの充実した学生生活の様子や、卒業生の活躍を身近に感じていただける内容となっております。

また、同日に実施する後援会員の皆様と学生との交流会は、会員相互の親睦を深めるとともに、情報交換の場としても非常に有意義な機会となっております。

会員の皆様におかれましては、最寄りの定例・地域懇談会の日程をご確認のうえ、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

4 その他

修学援助奨学金・甲斐金給付の支援事業のほか、生理用品常設設置支援等を予定しています。

不安定な世界情勢において、多様な学生が学ぶAPUの価値・必要性をより強く感じています。後援会では身近な活動を通じ、学生たちが明るく、安心して挑戦できる環境を支えてまいります。会員の皆様の温かいご支援が、学生の成長とより良い未来へつながっていると信じています。今後とも、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2026年4月
APU国内学生後援会

■役員

	2026年度			2025年度後継
会長	東口 家寿子	福岡県	APM 3回生(5セメ)	監事
副会長	荒牧 順子	佐賀県	APS 3回生(5セメ)	運営委員
監事	財前 直見	大分県	ST 2回生(3セメ)	運営委員
運営委員	赤井 正幸	大阪府	APM 2回生(3セメ)	運営委員
	井上 緑富	千葉県	ST 1回生(1セメ)	—
	川中 卓	愛知県	APS 1回生(1セメ)	—

※ 2025年度会長 寺澤佐千夫様、副会長 平野孝様 は、2026年度ご退任。

■学内役員

2026年度		
名誉会長	米山 裕	APU学長
顧問	森島 朋三	学校法人立命館理事長
	仲谷 善雄	学校法人立命館総長

■学内幹事

2026年度		
幹事長	淺野 昭人	APU副学長
幹事	大澤 芳樹	APU事務局長
	石坂 和幸	APU副事務局長
	佐間野 有希子	APU事務局次長
	日野 智志	APU事務局次長
	末永 拓海	APU事務局次長
	岡田 航洋	アウトリーチリサーチオフィス課長

※ 任期は、会則に則り、本年度第1回運営委員会から次年度第1回運営委員会までの1年間とする。

2025年度役員 2名のご退任

- 2023年度~25年度
2025年度会長 寺澤 佐千夫 様



- 2023年度~25年度
2025年度副会長 平野 孝 様



後援会学生生活支援事業『100円朝食』

【2025年度（4月～7月、10月～1月）の実績】

- 利用数 31,649人
- 補助額
400円～488円の朝食を⇒100円で提供



国内学生後援会について

後援会啓発事業「ストーカー被害撲滅」動画作成（25年度）

作成した動画は
こちらのQR
コードからご覧
になれます。



ストーカー規制法におけるつきまとい行為等の例

つきまとい、待ち伏せ、見張り、
押しかけ、うるつき

通勤・通学途中などあなたの行く先々で
待ち伏せされる。自宅付近をうるつかれる。

面会、交際、義務のない
ことを行うことの要求

拒否しているにもかかわらず、面会や交際、
復縁を求めてくる。

無言電話、連続した電話・FAX・
手紙・メール・SNSのメッセージ等

拒否しているにもかかわらず、携帯電話や
自宅、会社に何度も電話をかけてくる。

名誉を害する事項を伝える行為

あなたの名誉を傷つけるような文章などを
インターネットに掲載される。

GPS機器等や紛失防止タグを
用いて位置情報を取得する行為

アプリケーションを用いて、あなたの持っている
スマートフォンや紛失防止タグの位置情報を知ら
れる。

監視していると伝える行為

帰宅直後に「おかえりなさい」などと電話
やメールをしてくる。

著しく粗野または乱暴な言動

大声で「バカヤロー」などの粗野な言葉を
浴びせられる。

汚物等の送付

汚物や動物の死体など、不快感や嫌悪感
を与えるものを自宅や職場に送りつけられる。

性的差恥心を害する事項を伝える行為

わいせつな写真などを送りつけられたり、
インターネットに掲載される。等

GPS機器等や紛失防止タグを取り付ける行為等

あなたの車にGPS機器を取り付けられる。
あなたの鞆に紛失防止タグをひそかに入れられ
る。



国内学生後援会について

APU開学25周年記念品の贈呈について

大学開学25周年を記念し、大学への感謝と今後の発展を願って、映像モニターを贈呈頂きました。
学生のグループワークの実践の場をはじめ、プレゼン資料の作成・発表練習の場、学内イベント・講演会の実施の場、授業・研究成果または学生の活動発表会の場、地域連携イベントの実施の場などに活用させていただきます。

贈呈品の内容

- 大型モニター 1台 (135インチLEDモニター)
- 小型モニター 6台 (55インチ液晶モニター)

<贈呈式の様子>



3. APUの概要と今後の展望



多文化共生型キャンパス

122

カ国・地域 合計6,699名が学ぶ国際大学
国際学生3,274名と国内学生3,425名

(2026年5月1日付/学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

開学以来、学生が在籍
したことがある国・地域

170

学生数のうち
外国人留学生比率

48.9%

外国人留学生のうち
正規生比率

97.0%

教員総数

213 名

外国籍教員総数

102 名

外国籍教員比率

47.9%

※教員総数は専任の教授、准教授、助教、講師の合計
(2026年5月1日付)



特徴ある3学部の学び

APS

アジア太平洋学部

入学定員 510名/年

文化・社会・メディア

グローバル経済

国際関係

ST

サステナビリティ観光学部

入学定員 350名/年

環境学

資源マネジメント

国際開発

地域づくり

社会企業

観光学

データサイエンスと情報システム

ホスピタリティ産業

観光産業

国際経営学部

入学定員 610名/年

経営戦略・リーダーシップ

マーケティング

会計・ファイナンス

アントレプレナーシップ・
オペレーションマインド

APM

学部

学部

GSA

アジア太平洋研究科 博士前期課程

入学定員 60名/年

アジア太平洋研究科 博士後期課程

入学定員 10名/年

国際学生が約半数

英語・日本語を徹底的に
鍛える言語教育

約半数を占める外国籍教員から
世界の「いま」を学ぶ

学部は日英二言語、
大学院は英語のみで開講

経営管理研究科（修士課程）

入学定員 40名/年

GSN

大学院

大学院

APU独自の教育スタイル

大学生活を**成功**に導く、
多文化協働クラス

学部に関係なく全員が初年次に受講する「[多文化協働ワークショップ](#)」では、大学生活を成功させるためのスキルが学べます。多国籍が混じり合う少人数グループに分かれ、半年間かけて共に課題に取り組むなかで、APUでの学生生活に必要な言語力、異文化理解力、コミュニケーション力の修得を目指します。

ディスカッションと
実践を重視した講義内容

教員・学生同士でのディスカッションを授業内で頻繁に行うことで、論理的思考を鍛錬するとともに、相手の意見に耳を傾けつつ発信するコミュニケーション力を磨きます。学生には国内外の現場でリサーチを行うフィールドスタディを推奨しており、実社会で活かせる問題解決能力の修得を促しています。

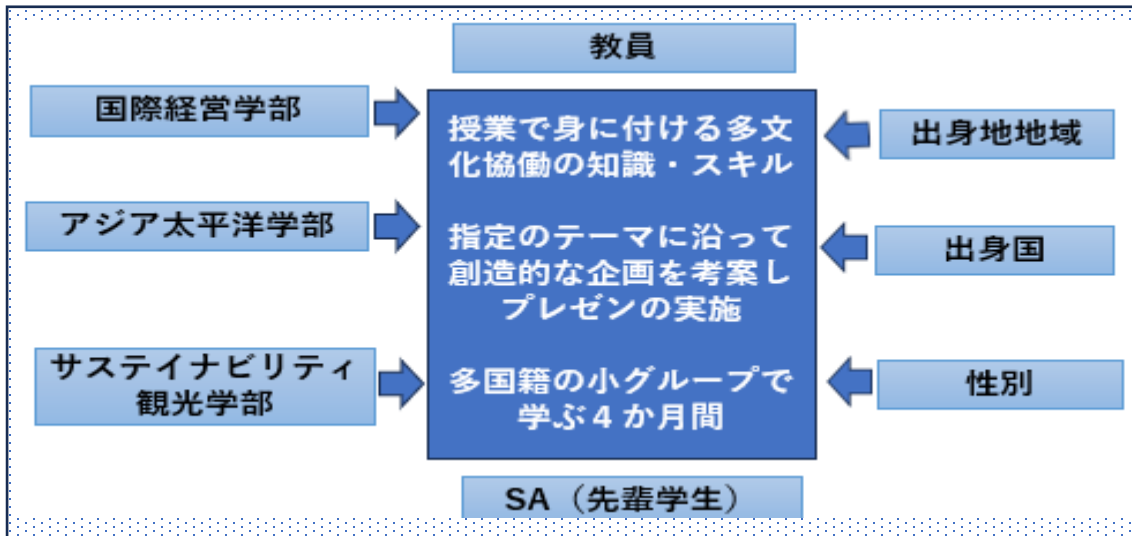
世界を舞台にした、
学生同士の**学び合い**

APUには、より良い社会の実現に貢献したいと志す学生が世界中から集まっています。多くの学生たちは、高度な知識を持った選りすぐりの教員たちの指導のもと、チームで切磋琢磨し、国内外の様々な分野における大会で優秀な成績を残しています。世界を舞台に活躍する仲間たちとともに、国際水準で戦えるプレゼンテーション能力、クリティカルな思考と交渉力を養うことができます。

APU独自の教育スタイル『多文化協働ワークショップ』 (MCW:Multi Cultural Workshop)

全学生約6000人の半分が、100以上の国・地域から集う留学生

APUでは授業内外において、多国籍な学生同士の協働作業を日常的に行います。この環境を存分に活かして4年間学ぶには、コミュニケーションや多文化協働のスキルの鍛錬が必須です。そのために1回生が必ず受ける授業が、多文化協働ワークショップ。大学生活を成功させるためのスキルを獲得できる仕掛けとして開講しています。



■ 多文化協働ワークショップにより高められる能力

1, グローバル社会に対応できるマインドセット

- 異なる文化に属する人々に対して持つステレオタイプ、偏見、思い込みに気づくことができる。
- 自文化を中心としたものの見方から抜け出し、文化的背景の異なる人々の視点から物事を見、感じることができる。

2, 多文化協働の基本スキル

- グループの一員として自分からできることを探して行い、グループ活動に積極的に貢献することができる。
- グループメンバーが自分は尊重されていると感じられるように、メンバーの個性とグループへの所属感を大事にした態度や声掛けができる。

3, 高いコミュニケーションスキル

- コミュニケーションのとり方がいかに異なりうるかを理解し、状況に応じて異なるコミュニケーションスタイルを実践できる。
- 文化的背景の異なる人々の文化や生き立ちに好奇心を持ち、心を開くことができる。



APU独自の教育スタイル『多彩なアクティブ・ラーニング』

国内・外、短期・長期と多様なプログラム

日本人学生は卒業までに一度は海外での学びを体験することを目指す

DIFFERENT CULTURE

異文化を体験する

FIRST

1回生向け異文化体験学習プログラム

- ▶ 言葉の通じない国・地域で調査を行う新入生対象のプログラム



SPECIALTY

専門を学ぶ

交換留学・共同学位

- ▶ 交換留学では、現地の学生とともに専門の科目を履修



LANGUAGE

言語運用能力を高める

言語イマージョン

海外言語集中研修

- ▶ 海外の大学のキャンパスや大学付属の語学学校などで集中的に学習



専門分野調査研究型プログラム

フィールド・スタディ

- ▶ 専門分野の理解を深めるために、現地で調査と研究を行う



APU独自の国際教育寮『APハウス1・2・5(キャンパス内)』

違いを知る。認める。そのうえで課題についてとことん話し合い、

「解決策」を導き出す力を育む



およそ100か国・地域 1,326名がともに暮らす

寮生の国際学生比率 2026年5月1日現在

40.5%

シングルタイプ

シェアタイプ

ユニバーサルタイプ

収容可能

1,186室 + 378室 + 7室 = **1,571名**

VALUES

互いの生活習慣や
価値観の違いを知る

- シェアタイプは日本人学生と国際学生が隣り合わせ
- 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる



NOURISH

学び合い、
助け合う心を養う

- 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- 授業やレポートの教え合い・学び合い
- 毎月フロアミーティングを実施



RULE

ルールを作り、
学生スタッフが運営

- RA（レジデント・アシスタント）が寮生をサポート
- 各種イベントの企画・運営
- フロアを巡回、ゴミ分別チェック



EVENT

イベントを通じて
交流を深める

- フロアや棟ごとにパーティーやイベントを開催
- 各国の文化を紹介する企画
- 世界祭（寮祭）の実施
- 広島・沖縄などを目的地にし、「平和」がテーマのツアーを開催



2025年度進路状況

			国内学生	国際学生	合計					
						アジア太平洋学部	国際経営学部	サステナビリティ観光学部	大学院	合計
卒業生・修了者 ¹			665	535	1,200	589	610	1	86	1,286
卒業生進路内訳	就職決定報告者		517	260	777	393	383	1	43	820
	進学者 ²		23	56	79	36	43	0	4	83
	その他 ³		96	162	258	116	142	0	26	284

例) 1. 卒業生・修了者…2025年9月、2026年3月学部卒業生・大学院修了者(国際学生含む) / 2. 進学者…大学院・大学進学者 / 3. その他…帰国、進学・資格試験の受験準備、就職活動継続、留学、専門学校、家事従事など

2025年度

就職決定率

就職決定率 = 就職決定報告者 /
就職希望者 (2026年3月31日現在)

91.7%

国内学生
就職決定率

92.2%

国際学生
就職決定率

90.9%

地域別・業種別就職者割合

国を越える

コミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

国内学生 ▶

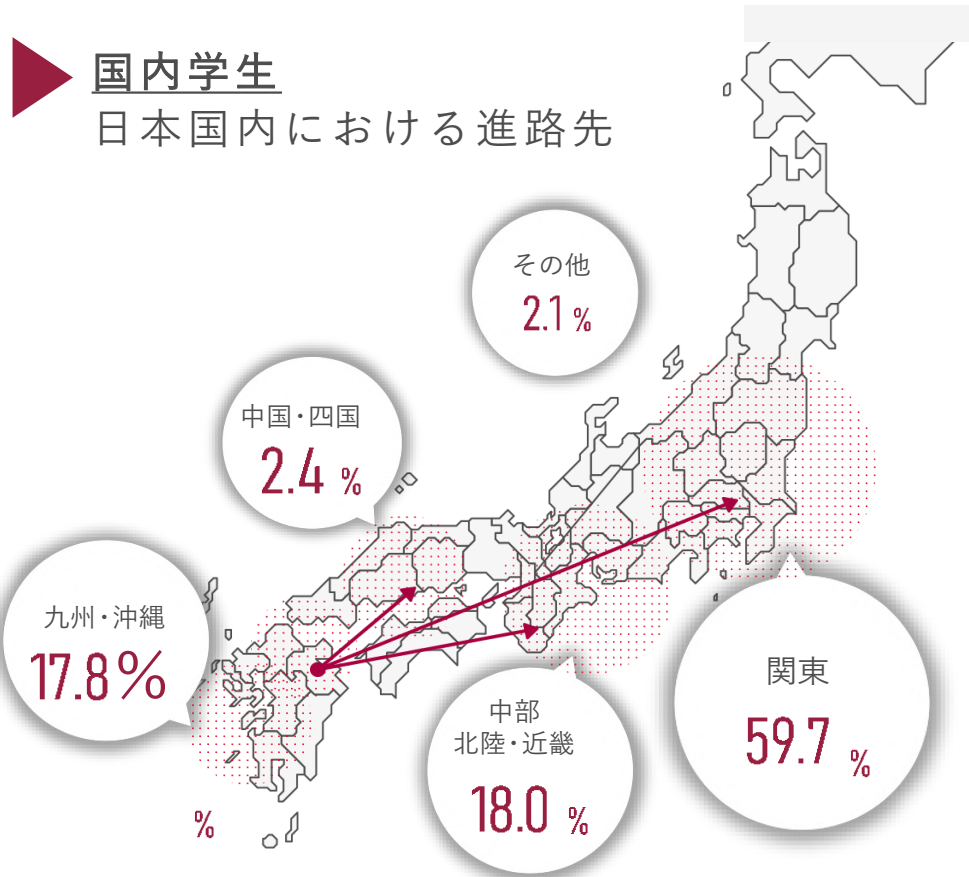
グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶

日本企業 or 母国へ

▶ 国内学生

日本国内における進路先



▶ 業種別就職先企業（日本国内）

【国内・国際】

業種	国内学生 (%)	国際学生 (%)
サービス	27.8%	43.1%
メーカー	20.0%	17.6%
IT・情報処理	13.1%	10.3%
商社	7.9%	6.4%
金融	7.5%	4.9%
運輸・倉庫	6.5%	4.4%
流通	5.8%	3.9%
情報（通信・マス）	4.4%	2.5%
官公庁・団体	3.6%	2.5%
エネルギー	1.2%	0.5%
教育機関	1.0%	0.5%
医療・福祉施設	0.6%	0.5%
専門・技術サービス	0.4%	0.5%
外国企業のため	0.2%	0.5%

国内学生と国際学生に共通し、グローバル志向の高さ、挑戦、 固執しないキャリア感を保持している傾向がある

APU学生全体の傾向

- グローバル志向が強く、海外キャリアや国際的な環境(日本の多国籍企業や外資企業)を求める人が多い。

- ✓ 日本で働きたいが、グローバルな仕事をしたい。それができる企業がいい
- ✓ 必ずしも「グローバル=海外」ではなく、**多国籍な環境やチームの中でキャリアを積みたい**

- 「安定した仕事が欲しい」よりも、「やりたいことを実現するためのキャリアを築く」志向

- ✓ 「日本の良さを発信したい」「地域の活性化に寄与したい」「起業したい」「世界を見たい」
- ✓ 社会課題の解決や**自分が没頭できることをしたい**

- まず一般企業で経験を積む → 「次のステップへ」のキャリアプランを持つ人も一定数

→3回の転職を経てGAFGAに就職する学生もいる

国内学生は挑戦・成長志向が強い一方で、国際環境に順応してきた結果、日本社会にフィットできるか、迷いを抱えている場合もある。

国内学生

- 「安定」よりも「挑戦・変化・自己成長」を重視するキャリア観が強い。国際学生と比較しても、国内学生は「やりがい・成長」を重視する傾向
- APUの学生の特徴として、多文化環境に身を置いたことで、逆に「日本の良さを発信したい」「地元で地域活性化したい」と考えるようになった学生も一定数
- 国際環境に慣れすぎて、日本人であっても、日本社会にフィットできるか不安に思う学生もいる
- 具体的なキャリアが決まっていない人も多く、「とりあえず就職」が一定の選択肢（「好きなこと」「得意なこと」「適性」のどれを基準にキャリアを決めればいいのか分からない）
- APUの「多様な進路の可能性」が、選択肢を広げる一方でキャリアパスを絞りきれず悩んでいる声も
- キャリア情報の格差（特に地方大学での就活の難しさ）を感じる声もあり、具体的な進路情報を取りきれないことが悩み



モース・カオガス・フローレス氏

アジア太平洋学部 2006卒業 / APU校友会会長

フィリピン出身。国際連合人権高等弁務官事務所勤務。APUを卒業した後、海外の大学院で専門性をより高め、人権に関わる分野の専門家として、NGOや国連機関（ILO、UNIPP）で経験を積んできました。現在は、国連人権高等弁務官事務所の人権担当官として、スイスのジュネーブを拠点として、仕事で世界各地を飛び回っています。



永野 雄太氏

2013年春アジア太平洋学部卒業

APUで貧困問題、ソーシャルビジネスについて学ぶ。卒業後は三井住友銀行に入社。2013年秋よりカンボジアに移住、現地企業に転職し、マイクロファイナンスや不動産ファンドの業務に従事。2017年にデジクロ株式会社を創業、非銀行利用者層向けの金融アプリを展開。ハーバード大学公共政策大学院修了。APU校友会の団体「APU Startup Founders」の代表も務める。

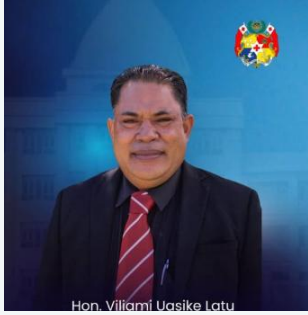


DISSA Syakina Ahdanisa氏

国際経営学部 2010年卒業 / アジア太平洋研究科博士課程在籍中

インドネシア出身。ディッサさんは聴覚障がい者が働くカフェなどを運営する社会起業家。彼女がインドネシアで設立した企業「Fingertalk（フィンガートーク）」にはカフェ、洗車場、裁縫場などがあり、聴覚障がい者を雇用して差別を受けることなく働ける環境を整備。オバマ財団のアジア太平洋リーダーの一人に選出されました。





ビリアミ・ウアシケ・ラトゥ氏 Hon. Dr. Viliami Uasike Latu
(アジア太平洋研究科博士後期課程1期生)

副首相に就任(2026年1月メディアリリース)

Deputy Prime Minister

- Minister for Justice
- Minister for Trade and Economic Development



ヴィトゥル・ジャナック・クマーラシンハ氏

第19代駐日スリランカ特命全権大使 (アジア太平洋研究科博士後期課程2007年9月修了)

2025年7月14日に米山裕学長とアジア太平洋学部のニシャンタギグルワ教授が、東京都港区の駐日スリランカ大使館を訪れ、ピヴィトゥル・ジャナック・クマーラシンハ特命全権大使を表敬訪問しました。



Shirin Amonzoda氏 (アジア太平洋研究科アジア太平洋研究科2016年修了)

タジキスタン労働大臣就任 (任期2020年11月-2023年1月)

APUは2000年の開学以来、独立行政法人国際協力機構 (JICA) のJDS事業 (The Project for Human Resource Development Scholarship: 人材育成奨学計画) により、アジア諸国から大学院へ優秀な留学生を受入れており、ShirinさんはタジキスタンJDSの6期生として、APUで学びました。



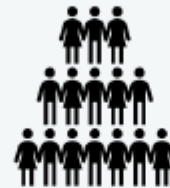
APU後半期計画の概要

アジア太平洋地域を中心とした
インパクト創出

九州で学び（理論）
アジア太平洋地域で実践し（行動）
世界で展開する（変革を起こす）



APUのコミュニティの拡大と
LLL
(ライフロング・ラーニング)



国籍の多様性
+
年齢・役割・地域・
分野の多様性

APUの教育・研究の強みを
活かした社会課題解決
社会的インパクトを重視
した研究の推進
+
研究成果の社会実装まで
を担う



2040年にむけて目指す大学像

大学とそのLLLコミュニティがアジア太平洋地域を中心とした社会課題の解決に取り組み
社会を巻き込み共創・協働の中で変革を起こしていく

(Building Bridges = 地域と地域、課題と人材、人と人を繋ぐ人材の育成)

本日はご参加いただきありがとうございました。

引き続きのご支援よろしくお願い申し上げます

Shape your world

立命館アジア太平洋大学

住所: 十文字原別府1-1 大分県大分県 874-8577

Tel: +81-977-78-1119 (英語) +81-977-78-1200 (日本語)